

第5章 コロナ禍による意識や親子関係の変化

新型コロナウイルス感染症の影響で、2020年から人々の生活が一変した。今回の調査で、コロナ禍を経験した児童・生徒の生活意識や親子関係についてたずねた。

1 大切さを感じたこと

約6割の児童・生徒が家族や友達の大切さを感じるようになったと回答した。

コロナ禍の生活を経験して、「家族の大切さを感じるようになった」と回答した児童・生徒の割合が57.7%で、「友達の大切さを感じるようになった」が61.9%となっている。また、「対面でのコミュニケーションは大切だと思うようになった」が44.5%、「学校の大切さを感じるようになった」が39.1%となっている。「勉強の大切さを感じるようになった」「勉強を自らするようになった」と回答した割合がいずれも2割台となっている。コロナの影響で、家族や友達、学校などの大切さを再認識するようになったのが見て取れる(図5-1)。

こうした大切さを感じたことについて、男女別と学年別で見てみる。「家族の大切さを感じるようになった」については、男女別ではあまり差が見られなかった。学年別に見ると、小5で66.3%と最も高く、次いで中1の58.3%、小6の58.1%となっている。中2で49.8%と最も低くなっている(図5-2)。

「勉強の大切さを感じるようになった」については、男女別では、男子の割合が28.9%と、女子の24.7%より高い。学年別に見ると、中3で33.4%と最も高く、次いで小6の28.5%となっている(図5-3)。

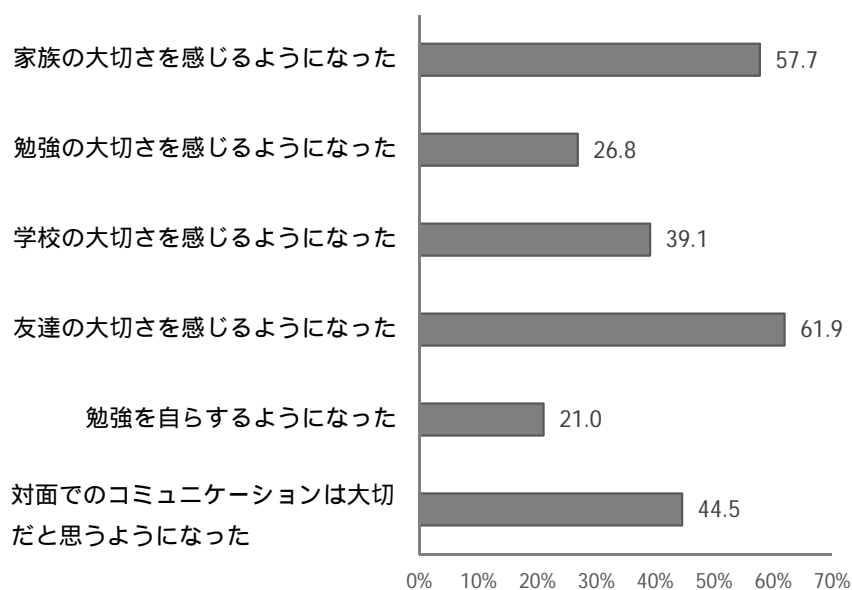


図5-1 [児童・生徒]コロナ禍の生活を経験して、大切さなどを感じたこと(複数回答)

「学校の大切さを感じるようになった」については、女子の割合が41.1%と、男子の37.7%よりやや高い。学年別では、中3と小5の割合が4割を超え、他の学年よりやや高くなっている(図5-4)。

「友達の大切さを感じるようになった」については、男女別ではほとんど差がなかった。学年別に見ると、小5で65.8%と最も高く、小6と中1の割合も6割を超えている。中2で57.0%と最も低くなっている(図5-5)。

「勉強を自らするようになった」については、男女別ではあまり差が見られなかった。学年別に見ると、中3で27.0%と最も高く、次いで小6の23.0%となっている。中2で15.6%と最も低くなっている(図5-6)。

「対面でのコミュニケーションは大切だと思うようになった」については、男女別では女子の割合がやや高い。学年別に見ると、各学年とも4割を超え、中3の48.2%が最も高くなっている(図5-7)。

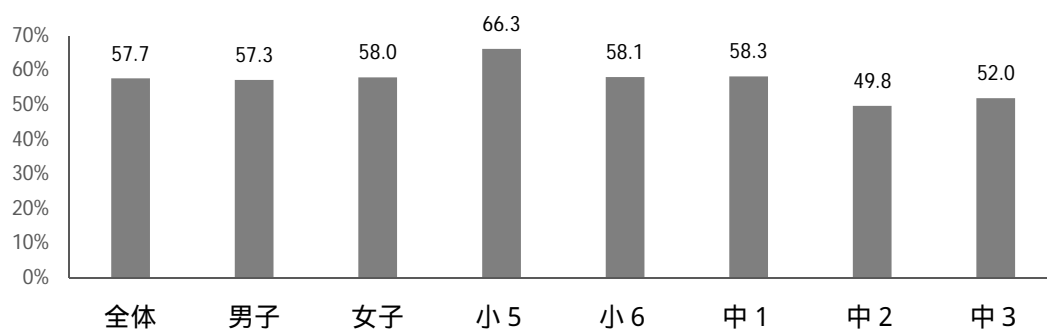


図5-2 [児童・生徒]家族の大切さを感じるようになった

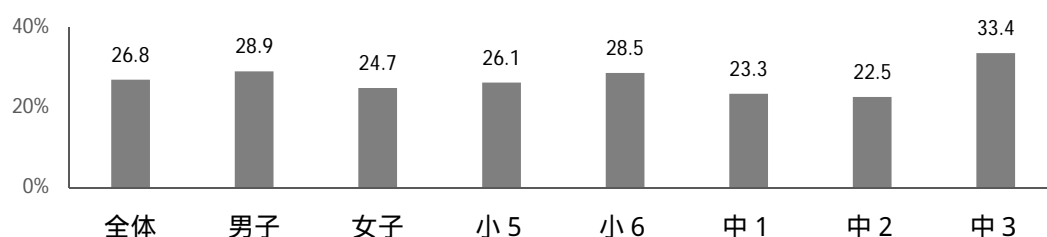


図5-3 [児童・生徒]勉強の大切さを感じるようになった

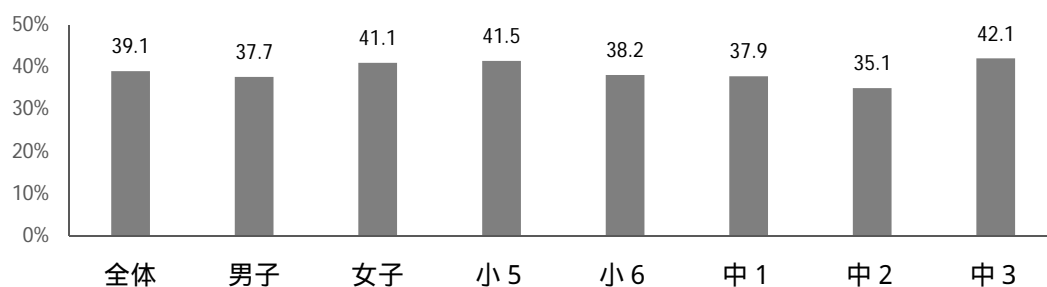


図5-4 [児童・生徒]学校の大切さを感じるようになった

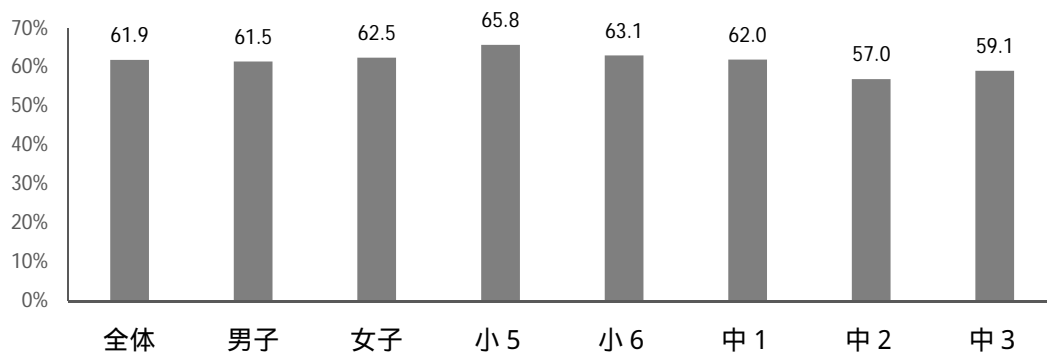


図 5-5 [児童・生徒] 友達の大切さを感じるようになった

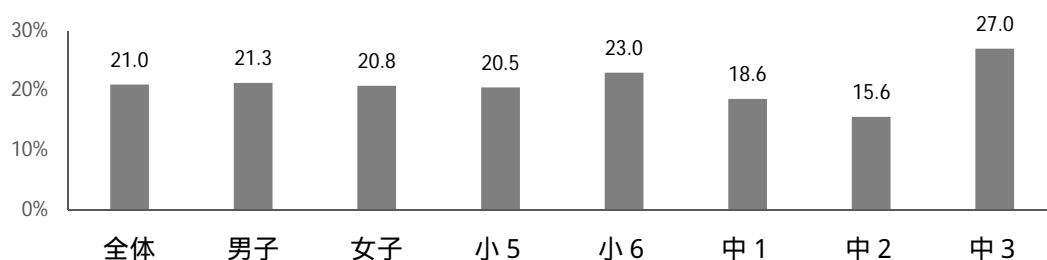


図 5-6 [児童・生徒] 勉強を自らするようになった

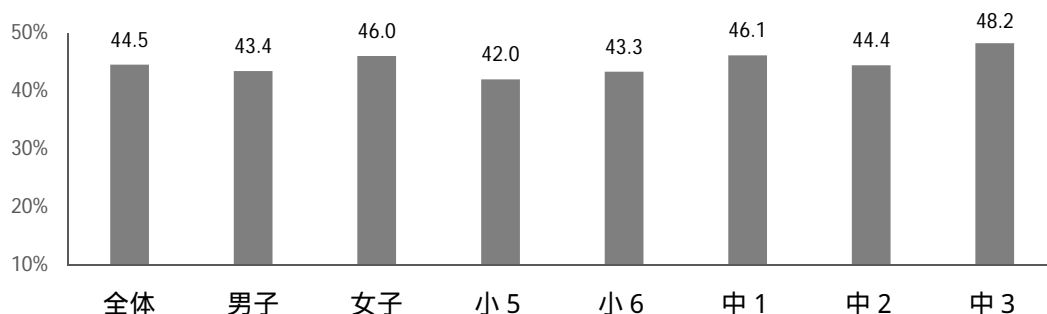


図 5-7 [児童・生徒] 対面でのコミュニケーションは大切だと思うようになった

2 親子関係の変化

親（保護者）と一緒にいる時間やコミュニケーションが増えた。

コロナの影響による親子関係の変化を見てみると、「親（保護者）と一緒に食事をする時間が増えた」「親（保護者）とよく話すようになった」について、「全くそうだ」と「まあそうだ」を加えた肯定的な回答の割合がいずれも約7割と高い。「親（保護者）と一緒にテレビなどを楽しんだりする時間が増えた」も6割となっている。また、「親（保護者）と一緒に遊ぶ時間が増えた」「親（保護者）と家事の分担をするようになった」がいずれも4割弱となっている。一方、「親（保護者）との口ゲンカが増えた」が3割弱で、「親（保護者）に放っておかれるようになった」が1割弱となっていることにも注目したい（図5-8）。

こうした親子関係の変化について、男女別と学年別でも見てみる。「親（保護者）と一緒に食事をする時間が増えた」については、男子と女子の比較ではほとんど差が見られなかった。学年別では、「全くそうだ」と回答した割合が、小5で47.6%と最も高く、次いで小6の41.4%、中1の40.2%となっており、中2と中3は3割強と低くなっている（図5-9）。

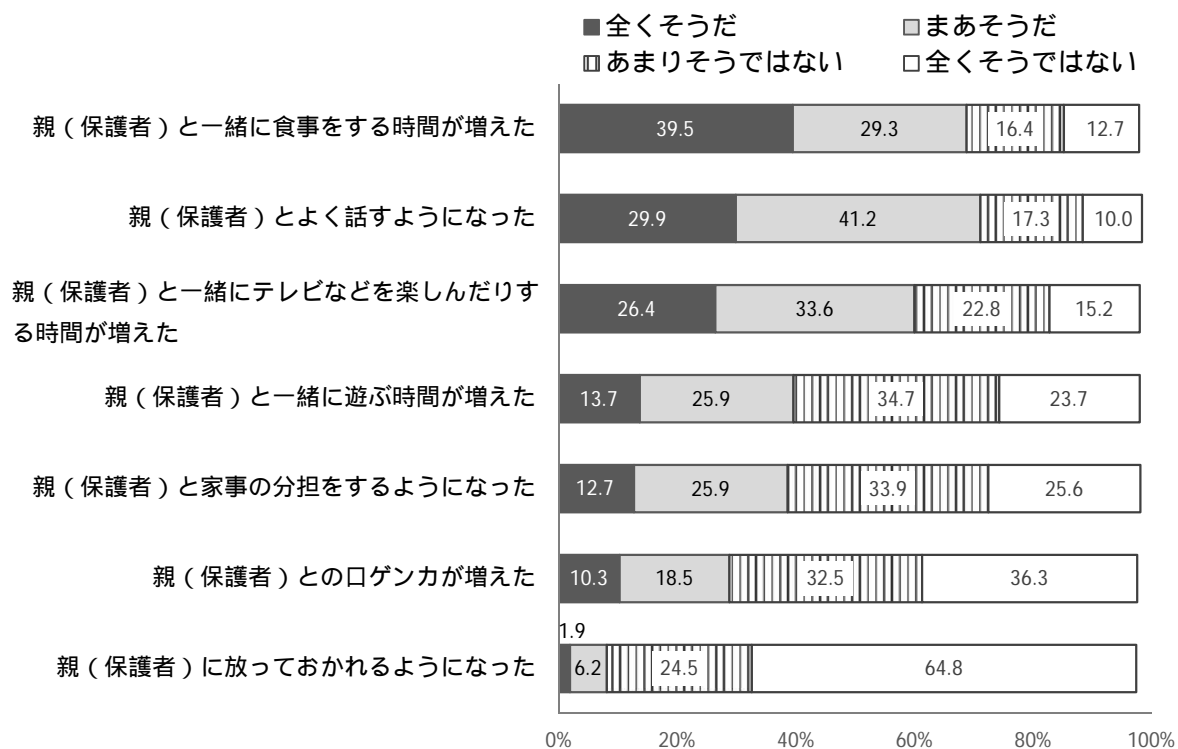


図5-8 [児童・生徒]コロナ禍の影響による親子関係の変化

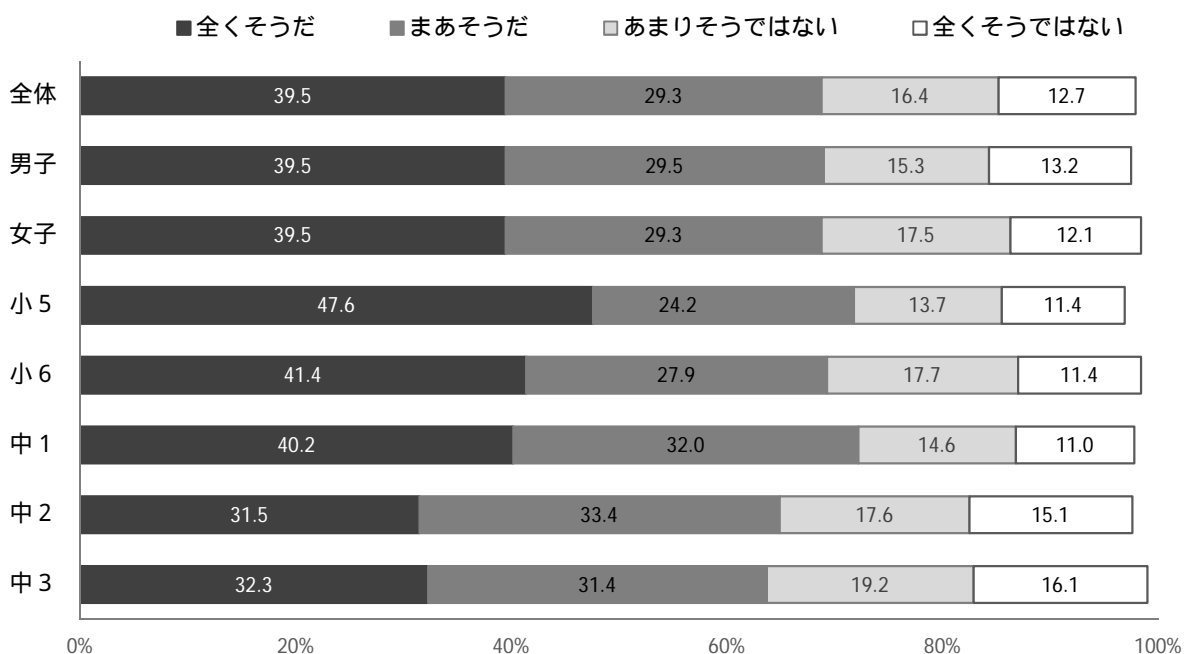


図5-9 [児童・生徒]コロナ禍の影響で、親（保護者）と一緒に食事をする時間が増えた

「親(保護者)とよく話すようになった」については、「全くそうだ」と回答した割合が、女子のほうがやや高いが、「まあそうだ」を合わせるとほとんど差が見られない。学年別では、「全くそうだ」と回答した割合が、小5で36.7%と最も高く、次いで小6の30.6%となっている。中2で23.1%と最も低くなっている(図5-10)。

「親(保護者)と一緒にテレビなどを楽しんだりする時間が増えた」については、「全くそうだ」と回答した割合が、女子で28.7%と男子の24.3%よりやや高くなっている。学年別では、小5で33.9%と最も高く、次いで小6の28.1%、中1の25.4%となっている。中2で19.3%と最も低くなっている(図5-11)。

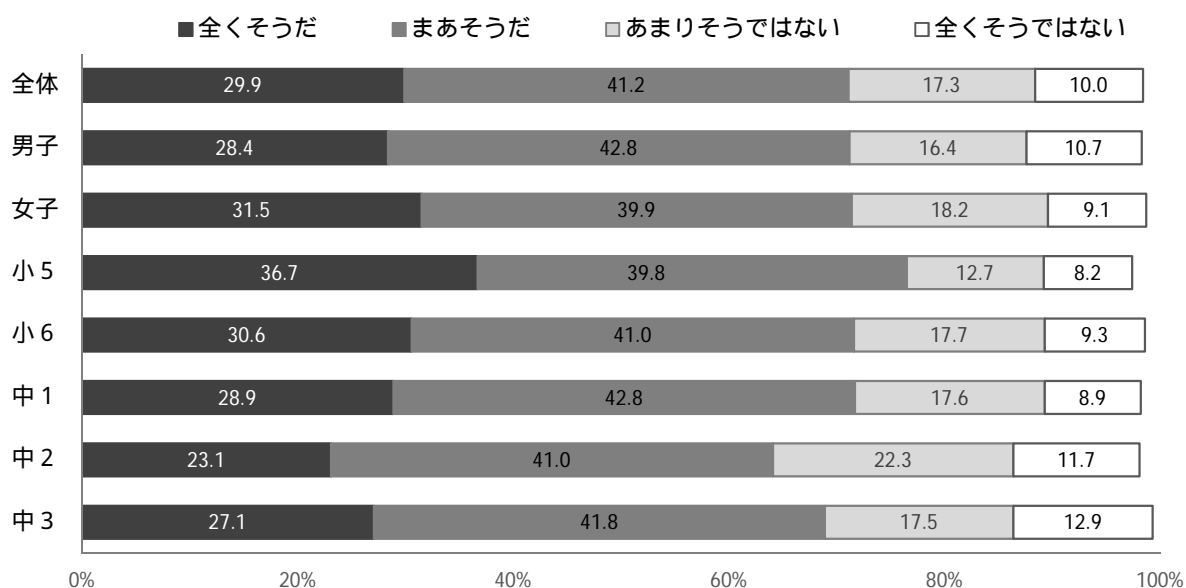


図5-10 [児童・生徒]コロナ禍の影響で、親(保護者)とよく話すようになった

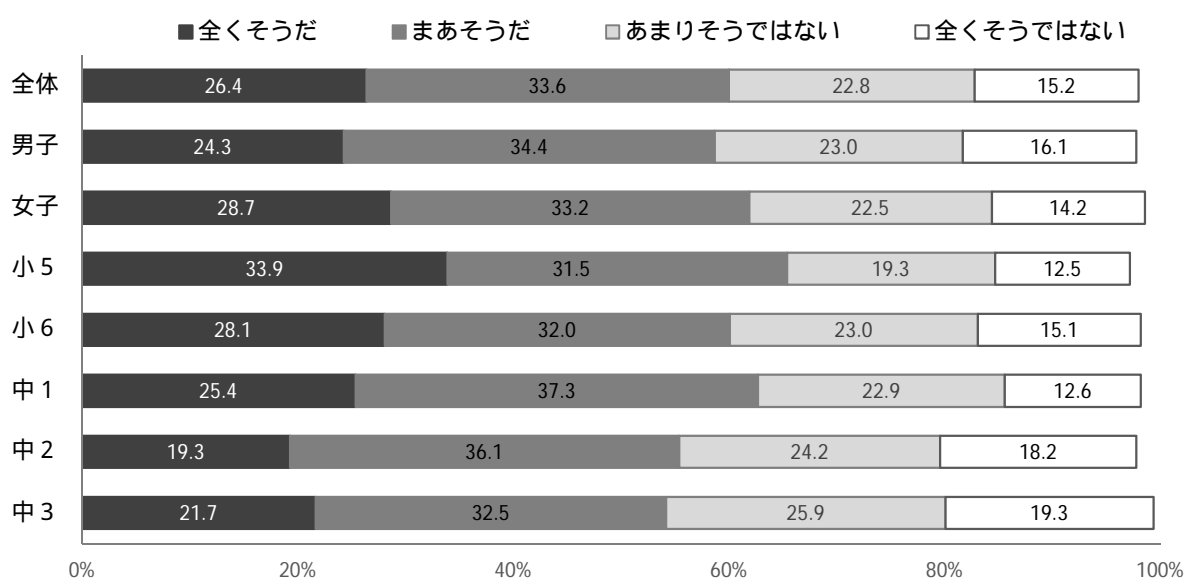


図5-11 [児童・生徒]コロナ禍の影響で、親(保護者)と一緒にテレビなどを楽しんだりする時間が増えた

「親（保護者）と一緒に遊ぶ時間が増えた」については、男女別では、「全くそうだ」「まあそうだ」と回答した割合は、女子のほうがやや高い。学年別に見ると、小5で48.4%と最も高く、次いで小6の40.2%となっており、中2と中3ではいずれも3割強と低くなっている（図5-12）。

「親（保護者）と家事の分担をするようになった」については、「全くそうだ」「まあそうだ」と回答した割合は、男子と女子の比較ではあまり差が見られない。学年別では、小5、小6、中1でいずれも約4割となっており、中2と中3になると、やや低くなっている（図5-13）。

「親（保護者）との口ゲンカが増えた」については、男子と女子の比較では差がほとんど見られない。学年別に見ると、「全くそうだ」「まあそうだ」と回答した割合が最も低いのは、小5の25.6%で、最も高いのは小6の31.7%で、学年別による差は大きくなかった（図5-14）。

「親（保護者）に放っておかれるようになった」については、「全くそうではない」と回答した割合が、女子で67.7%と、男子の62.2%より高くなっている。また、学年別では、小5、小6の68.3%に対し、中2は58.7%と低くなっている（図5-15）。

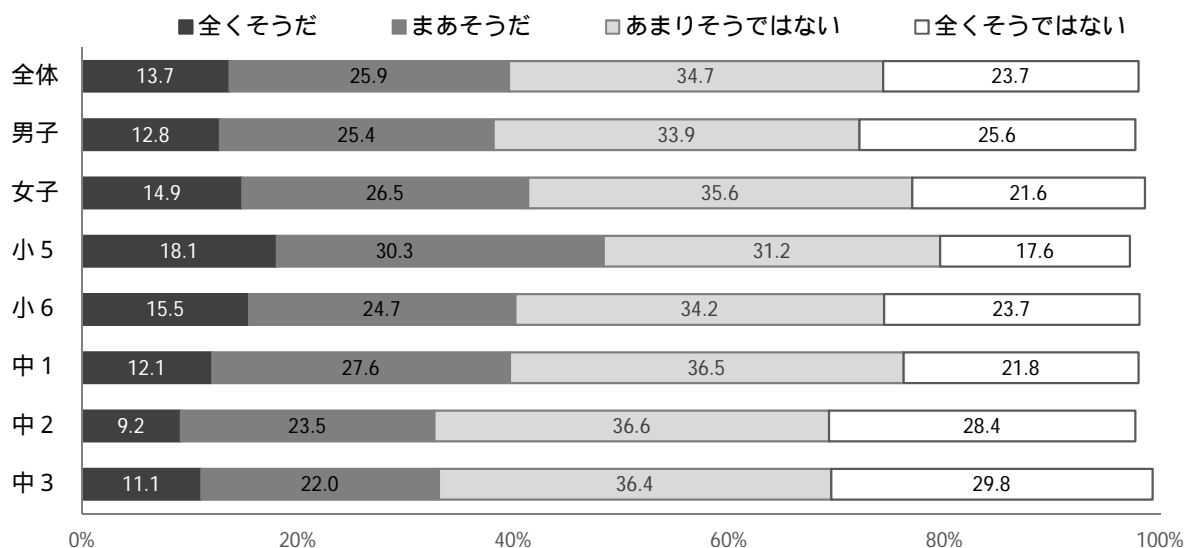


図5-12 [児童・生徒]コロナ禍の影響で、親（保護者）と一緒に遊ぶ時間が増えた

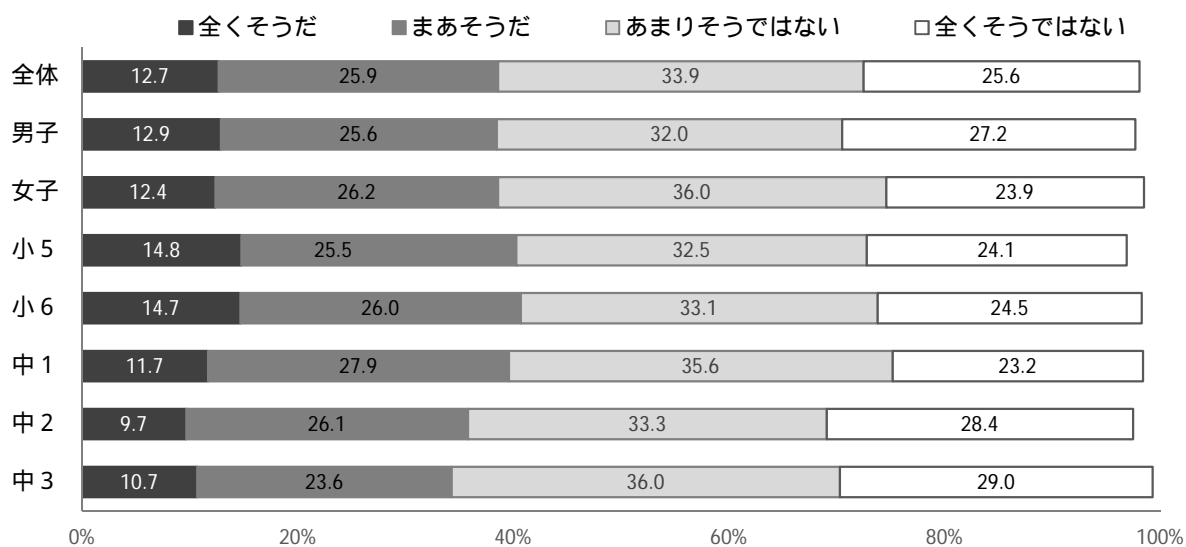


図5-13 [児童・生徒]コロナ禍の影響で、親（保護者）と家事の分担をするようになった

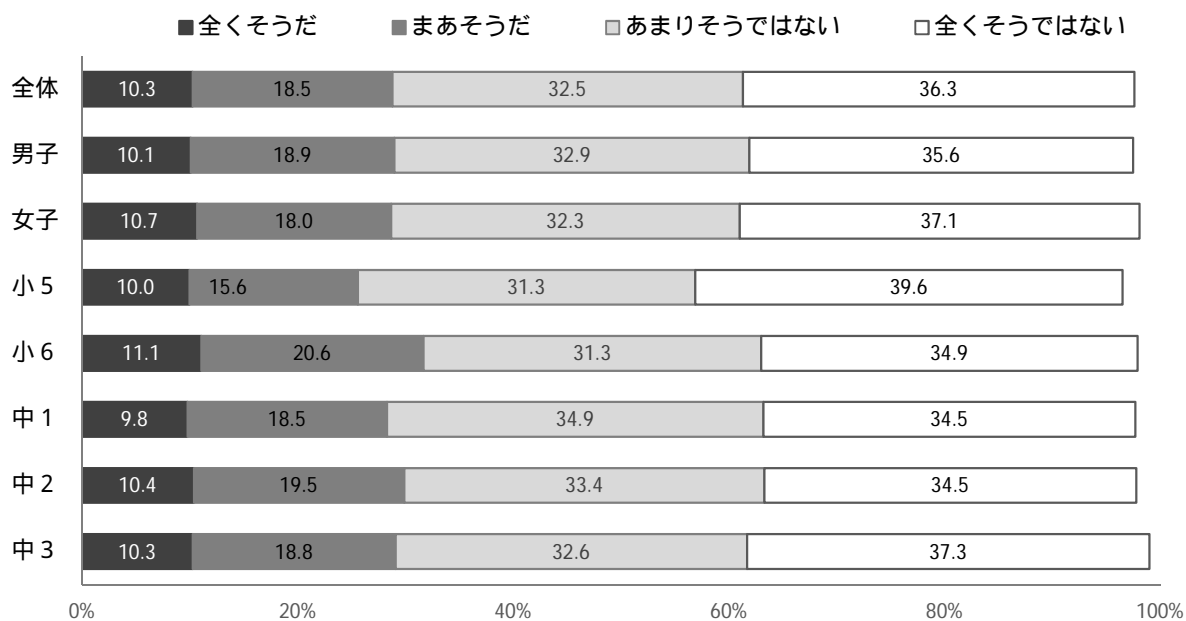


図 5-14 [児童・生徒]コロナ禍の影響で、親(保護者)との口ゲンカが増えた

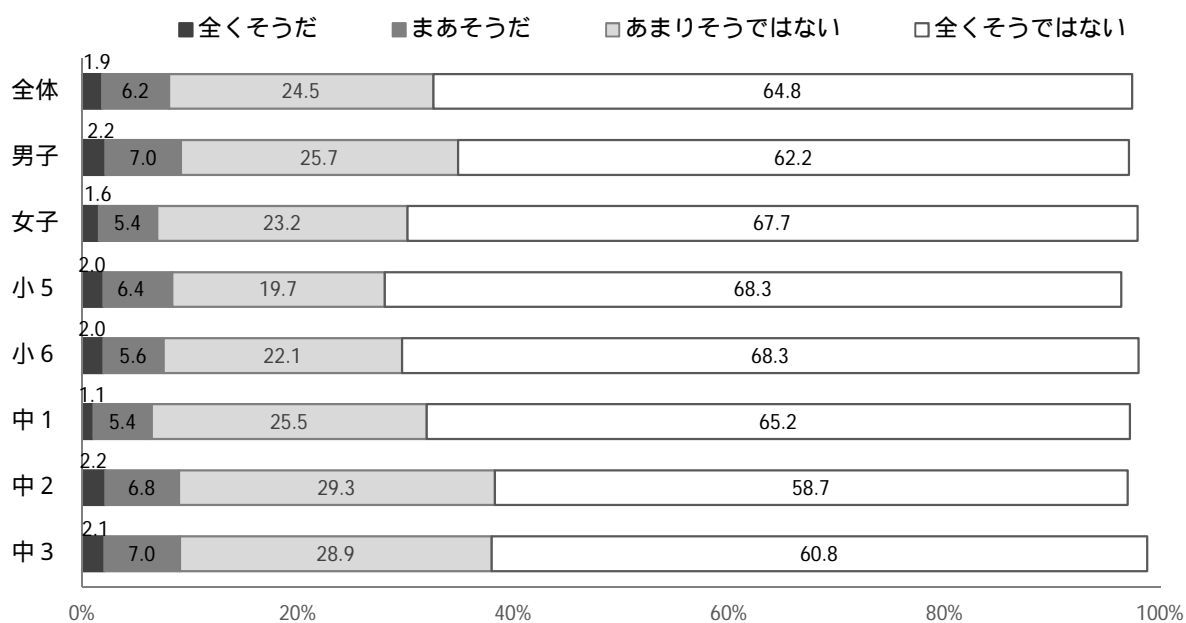


図 5-15 [児童・生徒]コロナ禍の影響で、親(保護者)に放っておかれるようになった